

梅から桜春の訪れ

一字一筆

静岡の今

2月4日、立春。暦の上では春が始まる。とはいえないフルエンザは大流行し、春は名ばかりの風の寒さである。

だが、早春を彩る梅の花が各地で開花し、つぼみを

膨らませている。

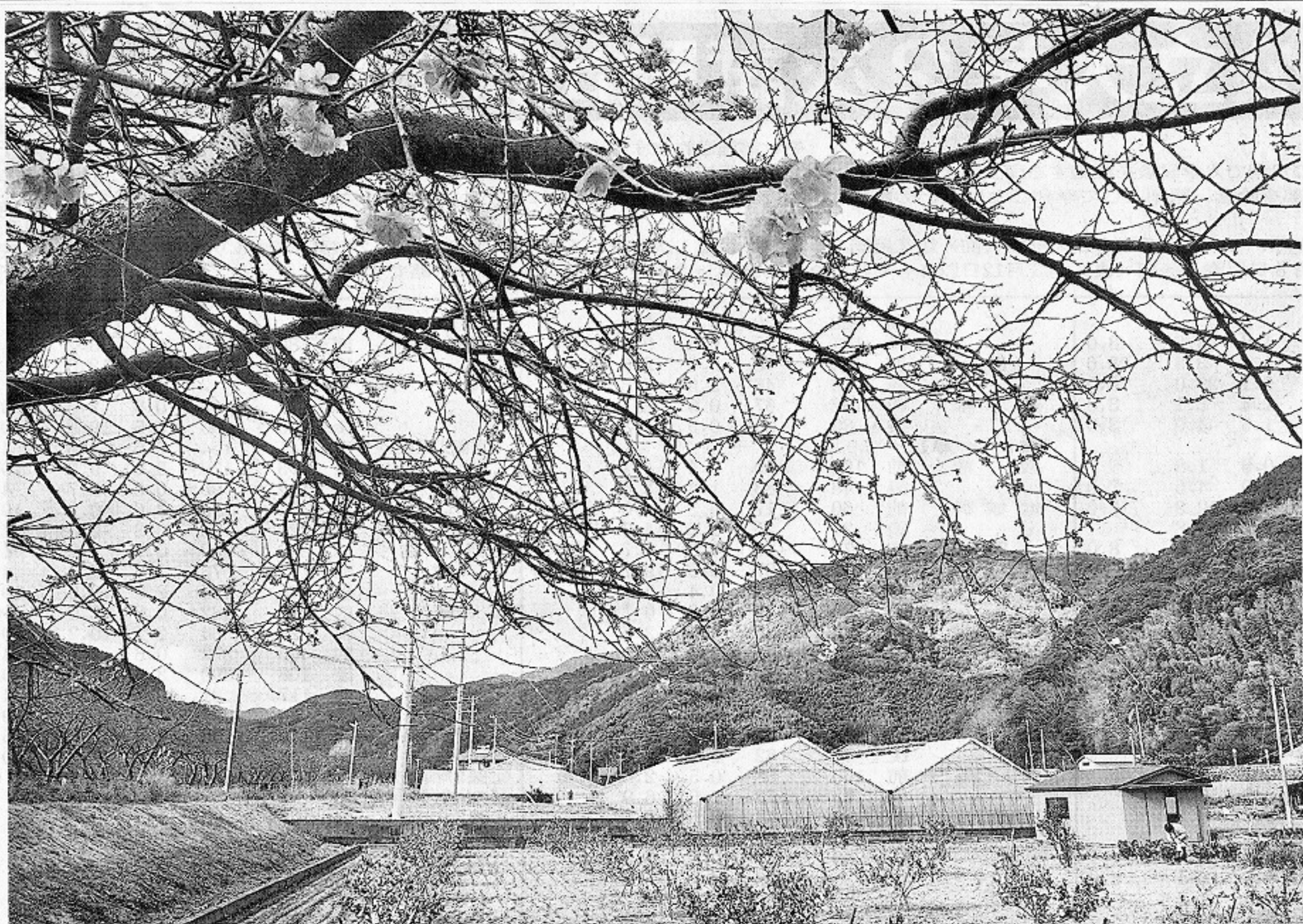
梅は百花の魁（はなはやく）という。その年のどの花より早く咲き、古くは季語で「花」と

いえば梅のことだったが、平安時代後期ごろから、春の花を代表する桜に季語の

座を奪われた。静岡に春を告げるのは、やはり「梅」である。「早

座を奪われた。

静岡に春を告げるのは、やはり「梅」である。「早



咲き始めた河津桜 河津町、全日写連・竹之内範明さん撮影

咲き」で知られる「熱海梅園」（熱海市）では新年早々には早くも一部の早咲きが開花。1月5日から3月3日まで「梅まつり」として、毎年、「静岡の春」の玄関口を務めている。園内470本余りの梅は早咲きが満開、今が見ごろという。梅の名所として知られる静岡市葵区の曹洞宗・洞慶院では、ロウバイの黄色い花がほのかな甘い香りを漂わせている。江戸時代の初めに中国から渡来したというが、昨年暮れから咲き始め約400本の紅梅・白梅に開花を促しているかのようだ。

梅の競演が終わればいよいよ桜の出番である。静岡の桜の春は、やはり「河津桜まつり」（河津町、2月10日～3月10日）から始まる。期間中には同町内8千本、河津川沿い850本の河津桜が咲き誇り、人口7287人（1月1日現在、同町調べ）の町に、首都圏などから約89万人（昨年のもまつり期間）の花見客が押し寄せる。

今年伊豆縦貫道の一部「天城北道路」（修善寺―矢熊6・7キ）が1月26日に全線開通し、伊豆観光アクセスが向上したが、同町の駐車スペースは1500台が限界で、公共機関の利用を呼び掛けている。

立春を過ぎて最初に吹く南寄りの強い風を「春一番」という。季節は足早に、桜に向かう。

（前静岡県監査委員・富永久雄）